

■児童・生徒の学力の状況

○令和8年度全国学力・学習状況調査において、全国の平均正答率と比較して、国語は4%下回っている。数学と英語はほぼ同じ水準である。

○令和8年度全国学力・学習状況調査の生徒質問調査において、「自分で学び方を考え、工夫している」「学習内容について見直し、次の学習に繋げることができる」に当てはまると回答している生徒が全国の水準を上回っている。各教科で自己調整学習を実践している成果が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○教科書を用いた授業と「授業スタンダード」の1時間の流れを徹底する。生徒自身が日常的に教科書を使って学習し、「授業スタンダードS」の実践を通して、自分で学習を進める習慣が身に付くよう授業展開を工夫する。

○引き続き、振り返りの活動において、Output（学習内容や主体性の記述）の内容を評価すると同時に、次時の学習活動で課題解決が進むように指導・支援の方法を工夫する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○生徒の自律と自立を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点から、各教科等における資質・能力を育成し、指導と評価の一体化を図る。

○一人一台端末を用いた個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、主体的に学習を調整する力の育成を図る。

○「板橋区授業スタンダード」の徹底とともに、「読み解く力」の基礎的読解力を基盤とした自己選択・自己決定・自己調整ができる授業づくりに努める。

○学校教育になじめない生徒への学びの機会を保障し、家庭と関係機関との連携を図り、生徒が社会的に自律することを目指す。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	総合的な学習の時間との連携
○各教科等と総合的な学習の時間において、生徒に自己選択をさせる活動を意図的に設定し、学習効果について検討し、継続して改善を図る。 ○自己調整を行う学習の土台となる基礎的読解力を育成する。	○学習の振り返り記録や単元末の小テスト等にGoogleアプリを積極的に用いることで、生徒自身が学習方法を調整できるように工夫し、個に応じた学びの充実を図る。 ○探究的な学習課題や課題解決を伴う活動において、タブレットを用いる機会を増やし、協働的な学びの充実を図る。	○校外学習における地域探訪や清掃活動、職場体験等を通して、身近な地域の実態を捉え、未来の地域づくりに向け、テーマ探究とマイ探究を設ける等、探究的な学習活動を実施する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○学びのエリア小学生授業見学と文化祭の鑑賞を通して、小学生が中学校を体感できる機会になるような内容を設定する。 ○授業スタンダードSに基づいた「自己選択・自己決定・自己調整ができる授業」について研究授業と指導案検討会（校内研修）をそれぞれ学期ごとに1回設定する。学びのエリアの先生方を中心に、多くの方々に参観していただき、協議会で得たことを基に、小中一貫した取り組みを推進する。	○全教職員で生徒を育てていることを意識し、各教科の授業と学級・学年経営において、生徒が主体的に判断し、協働的に活動できる環境づくりに取り組む。 ○生徒一人一人の心身の成長を支えるために、教職員間や保護者との情報共有を基に、全校体制での生活指導に取り組む、基本的な生活習慣の育成を継続する。	○「生徒一人一人を個人として尊重する」ために、全職員で関わる指導体制と、全ての生徒にとって、安心して学ぶことができる環境づくりを継続する。 ○学級担任を中心に、SC・SSW・不登校巡回教員と連携をして、個に応じた教育活動に取り組む。